

赤十字
サポーター1号



西京銀行取締役頭取
平岡 英雄

昭和31年広島県生まれ。その後宇部市に転居。小野田高校、広島大学卒業後、昭和53年山口相互銀行（現西京銀行）入行。支店長、本部部長を経て平成17年取締役就任。平成22年代表取締役頭取就任。

未来に向けて

平成25年4月に「さいきょう復興支援定期」を発売し、お預けいただいた総額の0.01%相当額（当行が拠出）と窓口に寄せられた募金を日本赤十字社に寄付し、被災者への義援金と、日赤の救護等の活動資金としてお贈りしたことが縁で、県支部の赤十字サポーター第1号となりました。以後、定期的な献血協力、店舗への募金箱や寄付金付き自動販売機の設置などにより、赤十字事業を支援してまいりました。

当行はこれからも、赤十字サポーターとして「人間のいのちと健康、尊厳を守る」日赤の人道支援に貢献していきます。

貴重な体験 「皇居・赤坂御所清掃奉仕活動」

県下で昭和24年から今も続く婦人会＝地域赤十字奉仕団の形は、赤十字が掲げる「人道・博愛」の精神や実践からの学びが、婦人会の幅広い奉仕活動と密接に結びついています。特に印象深かったことは、紅葉の輝く秋、新緑の春と2度連続で参加した清掃奉仕活動です。天皇・皇后両陛下と皇太子様へ「山口県赤十字奉仕団」の活動を直接お伝えし「立派な活動をしておられますね。」「お身体に気を付けてこれからも継続してくださいませ。」と優しい眼差しで温かいお言葉をいただきました。心の支えとし、これからも自分ができる奉仕に励みたいと思います。



山口県赤十字
奉仕団委員長

山口県連合婦人会長
藤家 幸子

元幼稚園教諭。山口市内の公立幼稚園全園を青少年赤十字へ加盟登録し、園児と共に「お役に立つ」ことの実践を続ける。退職後は賛助奉仕団へ入団。現在は婦人会を通じて地域奉仕団のボランティア活動に取り組む。

青少年赤十字
(JRC)指導者



防府市立華城小学校長
田中 邦明

小学校教員を38年間、県児童センター、県教育庁学校安全・体育課などを経て現在に至る。スポーツ少年団やクラブスポーツでは35年に渡り指導、平成28・29年度は県小学校長会会長を務める。

日赤県支部 設立130周年に寄せて

防府市立小野小学校に先村健二校長先生が赴任されたことを契機に、小野小学校がJRC加盟校となり、私はJRCトレセン指導者としての道を歩むこととなりました。今から30年近くも前のことです。当時は県内はもとより、中国・全国トレセンへと積極的に指導者講習会に参加し、人間関係づくりに役立つ様々なネタを学んだものです。県のトレセンには第1回大会から参加させていただいており、お陰でたくさんの指導者の仲間に出会うことができ、人との繋がりが一番の財産となりました。「気付き・考え・実行する」は、今でも私の実践目標となっています。トレセン…子どもたちがリーダーシップについて学ぶための宿泊学習

 **日本赤十字社** 山口県支部
Japanese Red Cross Society

ホームページ  <http://www.yamaguchi.jrc.or.jp>
Email  info@yamaguchi.jrc.or.jp

〒753-0094 山口市野田 172-5 日本赤十字社山口県支部 総務課 TEL 083-922-0102



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

山口県支部のあゆみと 災害救護の記録

2011年
【平成23年】
東日本大震災

救うことを、つづける

130周年

1942年
【昭和17年】
周防灘台風

2009年
【平成21年】
防府市土砂
災害

赤十字やまぐち
特別号

県民の皆様へ

日本赤十字社山口県支部長 村岡 嗣政

日本赤十字社山口県支部は、明治21（1888）年10月に設立して、今年で130周年を迎えます。この間、日清・日露戦争から第二次世界大戦までにおける戦時救護や災害救護、平時においては、健康と安全を守る救急法等の講習、未来を担う青少年赤十字、医療・血液事業など、人道・博愛の赤十字精神を基調として、幅広い活動を展開してまいりました。これもひとえに、赤十字の進展に尽くされた多くの関係者のご努力と県民の皆様の深いご理解とご支援の賜物であり、心からお礼申し上げます。これからも、「苦しんでいる人を救いたい」という思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守るため、未来に向けて人道支援を継続してまいりますので、今後一層の、ご支援、ご協力をいただきますようお願いいたします。



いのちと健康、
尊厳を守る

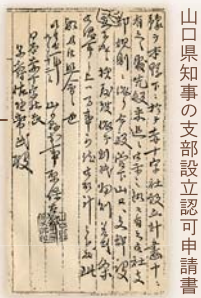


130年のあゆみ

山口県支部は明治21（1888）年10月に設立して以来、県民の皆さまに支えられ、戦時・災害時の救護活動から、戦後の安否調査、無医地区への診療班の派遣、また災害時や突然の事故・病気の際に役立つ救急法等各種講習の普及など、「いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」活動に取り組んでまいりました。

支部の主な救護活動

1888年 【明治21年】
日赤山口県支部設立（県庁内）



1920年 【大正9年】
山口赤十字病院開設
救護看護婦養成所も同時開設

県内の無医地区、僻地、離島地域に診療班を派遣する巡回診療を始める



1888年 【明治21年】

1895年 【明治28年】
日清戦争時に、船内救護員として8名、東京予備病院・広島陸軍予備病院へ21名を派遣。



広島陸軍予備病院負傷者病室



日清戦争の後建造した日赤の病院船博愛丸

1914年 【大正3年】
支部初の救護活動。熱中症患者救護のため秋吉台演習場に医師など5名を派遣。

県内で発生した主な災害

1942年 【昭和17年】
周防灘台風

救護員（20班・延べ99名）を派遣。



水害地 宇部小野田方面に向け
出発準備の第1救護班
（昭和17年8月27日、赤十字病院前にて）

1923年 【大正12年】
県下各小学校に支部少年赤十字団（JRCの前身）を組織しはじめる

1926年 【大正15年】
一般衛生教育活動の一環として「衛生講習会」をはじめる



家庭看護法講習会の様子

1932年 【昭和7年】
小野田赤十字病院開設

1925年 【大正14年】

1945年 【昭和20年】
終戦。昭和12年から救護員（30班・延べ1,075名）を派遣。



山口駅を出発する救護員

1946年 【昭和21年】
南海地震救護



1950年 【昭和25年】
キジア台風

救護員（4班・延べ15名）を派遣。



流出寸前の錦帯橋の様子
山口県立山口図書館所蔵
書名：錦帯橋 平成の架替 著者名：金田 惺
出版社：ヨハネハウス・ヨハネ建設

1947年 【昭和22年】
傷の手当、急病の処置などの「救急法」講習をはじめる



昭和55年
救急法講習の様子

1949年 【昭和24年】
溺者に対する救助や応急処置などの「水上安全法」講習をはじめる



昭和35年 水上安全法講習の様子

県内で初めて赤十字ボランティア（地域奉仕団）が結成される

1955年 【昭和30年】
県内第1回目となるトレセン（子どもたちがリーダーシップについて学ぶための宿泊合宿）を実施



昭和59年
高校トレセンの様子

1979年 【昭和54年】
下松港入港のオランダ船に乗船していたベトナム難民の入国を援護



1985年 【昭和60年】
中国四国各県支部合同災害救護訓練がはじまる



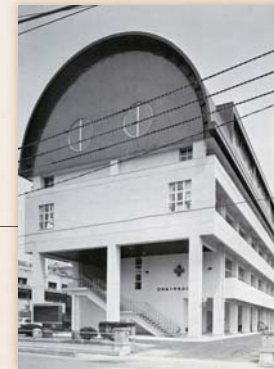
2009年 【平成21年】
防府市土砂災害

救援物資（毛布6,820枚、緊急セット128、安眠セット1,290、バスタオル100枚）を搬送。巡回健康相談に、34名の救護員を派遣。赤十字ボランティアによる土砂撤去等の活動。



1962年 【昭和37年】
外国人や外国に残留を余儀なくされた人々の安否調査が増え始める

1965年 【昭和40年】
山口県赤十字血液センター設置



日本赤十字社山口県支部

1978年 【昭和53年】
支部事務所を山口市水の上から現在の野田へ移転

1995年 【平成7年】
阪神・淡路大震災救護

2004年 【平成16年】
新潟県中越地震災害救護

2011年 【平成23年】
東日本大震災救護

2014年 【平成26年】
広島土砂災害救護

2016年 【平成28年】
平成28年熊本地震災害救護



写真 左から
・阪神淡路大震災：救護員（8班・延べ62名）、病院支援（2名）、ボランティア（1名）を派遣。救援物資（毛布300枚、日用品セット300、飲料水900L）を搬送。
・新潟県中越地震災害：救護員（1班・延べ6名）、こころのケア要員（1名）を派遣。
・東日本大震災：救護員（11班・延べ82名）、こころのケア要員（6次・延べ16名）、病院支援（6次・延べ10名）、介護支援（2名）、ボランティア（延べ31名）を派遣。救援物資（毛布300枚、緊急セット900、安眠セット80）を搬送。
・平成28年熊本地震災害：救護員（6班・延べ48名）、こころのケア要員（1名）、ボランティア（延べ7名）を派遣。支部支援ボランティア（延べ47名）。救援物資（毛布100枚）を搬送。

2013年 【平成25年】
山口・萩・阿武大雨災害

救護員（2班・延べ18名）を派遣。救援物資（毛布160枚、緊急セット63、安眠セット231、バスタオル555枚）を搬送。赤十字ボランティアによるがれき撤去、住宅清掃、炊き出し等の活動。



その他の救護活動

県下で開催されるスポーツ大会や公的な行事の際に看護師等を派遣し、参加者の急な病気のけがに備えています。

- ・昭和38年・平成23年国体
- ・昭和61年全国高校総体山口大会
- ・護国神社慰霊大祭
- ・特別支援学校体育祭
- ・レノファ山口FCホームゲーム
- ・あいりんピック・きらりんピック
- ・ねんりんピック
- ・ツールドしものせき
- ・中国山口駅伝 など

救護回数（派遣人数）

平成26年度 28回（43名）
平成27年度 28回（69名）
平成28年度 34回（54名）